

よみがえる江戸時代の彩色

名草神社



文化財ミニパンフ

国指定 重要文化財 名草神社（本殿・拝殿） 平成 22 年 6 月 29 日指定

国指定 重要文化財 名草神社三重塔 明治 37 年 2 月 18 日指定

山岳信仰の神社

名草神社は、妙見山の標高 800 m の山中にあります。

本殿は宝暦 4 年（1754）、拝殿は元禄 2 年（1689）の建築です。但馬国を代表する大社であり、五穀豊穡を祈願する山岳信仰の神社として栄えました。

本殿と拝殿は平成 22 年に国指定重要文化財となりました。境内には三重塔とあわせて 3 棟の国指定重要文化財が並びます。

建造物の彩色調査による彩色復元によって、金色や朱色に輝く創建当時の姿がよみがえりました。



極彩色によみがえった本殿の破風



朱色が鮮やかに輝く拝殿



本殿の向拝



本殿向拝見上げ

本殿と拝殿の修理

拝殿は平成28年に曳家という工法で本殿側に約10m移動させました。建物の下の地面を発掘調査すると古い礎石が出土しました。本殿を建築した時期に拝殿の前に石垣を積んで拝殿を約2m前方に移動したことが分かりました。破損した屋根を解体修理し、一部の柱を取り替え、彩色を再現しました。

本殿は平成29年に揚屋という工法で基礎から約1m持ち上げ、基礎と柱の修理を実施した後に、屋根の解体修理を実施しました。垂木などの材料の間から当時の朱色が発見されました。また屋根の下に使われた青黒い金具の中から金色に輝く金メッキを発見しました。

7年に及ぶ修理工事によって金色や朱色に輝く創建当時の姿が戻りました。



本殿向拝虹梁上の獅子



本殿正面柱の獅子鼻



本殿正面柱の獅子鼻



本殿の千鳥破風



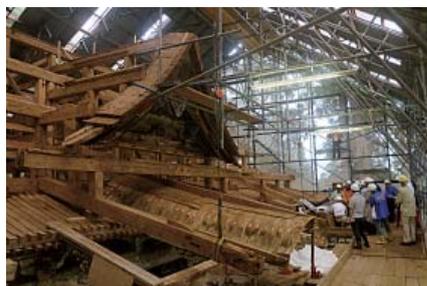
本殿内部の外陣



修復中の本殿（揚屋）



修復中の拝殿（曳家）



修復中の本殿屋根（正面破風）

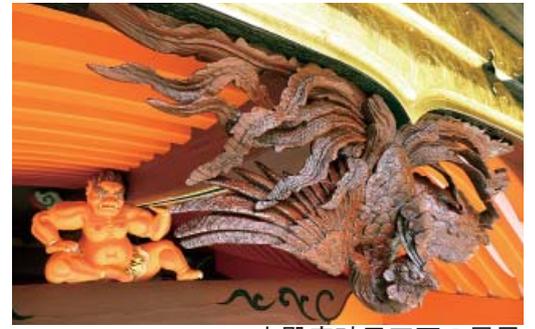


修復中の拝殿屋根

本殿の屋根と彫刻

本殿と拝殿の屋根は入母屋造りという形式で、屋根は薄い杉板を重ねた「こけら葺き」という伝統工法いりもやづくで作られています。もとは日光東照宮と同じ銅瓦葺きでした。こうはい

本殿の正面中央に参拝者のための向拝こうはいがあり、豪華な彫刻で飾られています。中央の虹梁には2体の獅子と屋根を支える鬼の彫刻、ひとつ奥には大きな龍の彫刻があります。周囲には牡丹などの花や孔雀などの鳥、鶴に乗る仙人など多くの彫刻があります。



本殿唐破風正面の鳳凰



本殿向拝二列目虹梁上の龍



本殿向拝上部の手狭（鳳凰）



本殿向拝上部の手狭（孔雀）



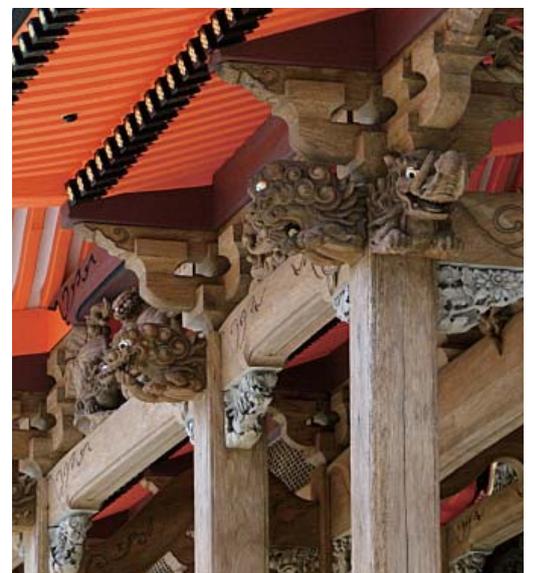
本殿向拝虹梁上の獅子と屋根を支える鬼



本殿向拝上部の手狭（鸞らん）



修復が終わった本殿



向拝上部に並ぶ彫刻



修復の終わった拝殿



拝殿によみがえった絵馬（部分）



拝殿正面に掛かる絵馬



拝殿中央の見上げ



拝殿柱上部の鮮やかな組物

石垣の上にたつ拝殿

拝殿は南側からみると建物の縁が石垣の外に張り出した懸け造りになっています。

石垣の前にある石段を上がると、正面に少しずつ本殿の屋根が見えてきます。

拝殿の正面には元禄2年の制作とみられる2枚の絵馬があります。杉の根元付近からとった1枚板を2枚に割ったものです。左側は神功皇后じんぐう たけのうちのすくねと武内宿禰やまとたける くまそ、右側は日本武尊の熊襲征伐の図とみられます。建造物の修理にあわせて彩色を調査して復元修理を行いました。

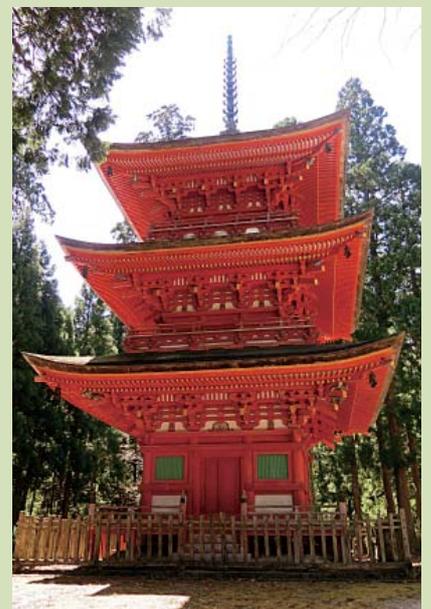
名草神社三重塔

この三重塔は島根県出雲大社の境内に、出雲の大名として有名な尼子経久あまごつねひさが願主となって大永5年（1525）に起工し、同7年6月15日に竣工したものです（資料によって異説があります）。出雲大社三重塔として、杵築の塔と言われて優雅な姿を誇っていました。

江戸時代に、妙見山から出雲大社本殿の御用材として御神木と呼ばれた妙見杉の巨木を提供しました。この時のお礼として、出雲大社三重塔を譲りうけました。三重塔は出雲大社で寛文5年（1665）1月に解体を始めました。島根県宇龍港から船に積まれて日本海をわたり、豊岡市の津居山港に着岸したといわれます。そして5月には妙見山まで人々の手によって運ばれ、9月に名草神社境内の現地に完成しました。



三重塔の上部にある猿の彫刻



三重塔